



南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は すすんで学ぶ子

R2.10.22 No.45

思いやりのある子

力いっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ 体育大会のふり返り 6年生

体育大会が終わり、6年生が、「やり遂げたときの気持ち」「体育大会を通して学んだこと成長できたこと」「周りの人々への思い」「学んだことをどう生かすか」の4つのことについて、ふり返りを行いました。読ませてもらって、体育大会が実施できて、本当に良かったと思いました。規模を縮小した体育大会でしたが、6年生を中心に、よく頑張ってくれました。

- ・体育大会へ協力してくださった先生や家族に感謝しています。また、ポスターをかいってもらったり、テーマ看板を準備したりしてくれた人たちにも感謝しています。体育大会が無事開きできて、本当に良かったです。
- ・小学校最後の体育大会を優勝で終わることができてうれしいです。応援合戦が終わった後には、声がかれて高い声が出せなくなっていたので、自分でもやり切ったんだなと思いました。最後までやり切れて良かったです。
- ・体育大会を実施させるためにいろいろな準備をしたり、応援して励ましてくださったので、今度は私たちが地区の活動に積極的に参加したり、準備をしたりしていきたいです。

○ 廊下の絵

子どもたちのいろいろな作品が、教室や廊下に掲示や展示されています。子どもたちの素直で、生き生きとした作品を見るのは、とても楽しいことです。

3年前、石川県珠洲市にある小学校の研究発表会に参加したときに、校内に掲示されている児童の絵に感動したことがありました。どの学年の絵もすばらしく、「どんな指導をしたら、こんな絵を描かせることができるのだろう」と思いました。

校長になってからは、本校の職員には、「絵の指導技術を高めてください(指導技術の教え合いをしてください)」「子どもたちの作品をたくさん飾ってください」ということを伝えていきます。実際に、本校の児童の絵もすばらしいと思います。コロナ禍で、校内に入る機会がなかなかありませんが、ご来校の際には、ぜひ絵などの掲示物をご覧ください。



○ 読書のすすめ 読書週間 (10/27~11/9)

◎2020読書週間標語「ラストページまで駆け抜けて」

【作者の言葉】

物語に引き込まれラストまで駆け抜ける。早く走り抜けても、のんびり歩いても。本は自分のペースで読み進められます。道のりが困難でもゴールは待っていてくれる。あなたを待っている物語がきっとあると思います。

◎2020読書週間ポスター大賞作品



【作者の言葉】

思うように旅ができない世の中になってしまいました。本は、未知なる場所へ連れて行ってくれる、いちばん身近な移動手段かもしれません。今年もいつもと変わらず、素敵なお本との出会いがありますように。

～10月21日 福島民報社より(一部抜粋)～

「ラストページまで駆け抜けて」。27日に始まる今年読書週間の標語だ。速さを競うわけではない。それぞれのペースでページをめくればいい。速くても、ゆっくりでも、読み終えたときの感慨は変わらない。読書は語彙力を高め、想像力や思考力を育む。週間を契機に、家族みんなで本に親しんでほしい。

子どもの読書推進策が充実する一方で、大人向けの対策は少ない。子どものお手本として自ら書物を手にするのが大人なのだろうが、現実には厳しい。小、中、高と年齢が上がるにつれて減少した読書習慣が、大人になって急に戻ることはない。16歳以上を対象にした文化庁の2018年度の世論調査で、1ヶ月に読む本の冊数をゼロと答えた人は47.3%だった。同じ調査の「読書量を増やしたいか」の問いには、60.4%が「そう思う」「ややそう思う」と答えている。読書の必要性を感じながら、踏み出せない現実がうかがえる。

新型コロナウイルスの感染予防策を踏まえた新しい生活様式が求められる今、読書を始めるチャンスではないか。物語や紀行、詩などがさまざまな場所に連れて行ってくれる。読んだ本に関して家族で語り合えば、さらに世界は広がる。家族の絆も深まる。読書の秋に本のある生活をお勧めしたい。

【校長のひとりごと】

私は、平成7年(1995年)4月～平成14年(2002年)3月まで、南条中学校に勤務していました。その時の生徒は、今年32～40歳になると思います。当時の保護者会で、「ゲームばかりしていて、勉強をしない。試験もあるのに、どうすれば良いのでしょうか。」という相談がよくありました。あれから20数年。今では、小・中学生の親になっている人もいますでしょう。親になった元生徒から、今でも同じように、「わが子が、ゲームをし過ぎていて困っている。」という話を聞きます。やはり何事も程度が問題です。たまには活字に親しむという時間も良いのではないのでしょうか。読書好きな親の子は、やはり読書が好きになるのかもしれませんが。時間を作って、ぜひ親子で読書を楽しんでもらいたいと思います。